



Pictet Global Market Watch

米国がん治療学会議(ASCO)での注目の発表

2018年の米国がん治療学会議(ASCO)が開催され、多くのバイオ医薬品企業が研究結果などを発表しました。ロクソ・オンコロジーなどが良好な結果を発表した一方で、ネクター・セラピューティクスは失望を誘う内容で、同社の株価は大きく下落する結果となりました。バイオ医薬品企業の株価は、新薬の開発動向などによって大きく変動する可能性があり、バイオ医薬品セクターへの投資は、分散投資が重要であると考えます。

米国がん治療学会議(ASCO)が開催され、多くのバイオ医薬品企業が発表

2018年6月1日～6月5日にかけて、米国・シカゴで2018年の米国がん治療学会議(ASCO)が開催され、多くのバイオ医薬品企業がさまざまな発表を行いました。

セルジーンはCAR-T療法の治験結果を発表

セルジーン(米国)は、ブルーバード・バイオ(米国)と共同で開発を進めている多発性骨髄腫(MM)に対するBCMA CAR-T(キメラ抗原受容体T細胞)療法について、既にさまざまな治療を受けてきたMM患者にとって非常に効果的な療法であることを示す結果を発表しました。

同療法は、奏効率^注95%、完全奏効率50%、有効量の投与を受けた患者の無増悪生存期間(PFS、治療中(治療後)にがんが進行せず安定した状態である期間のこと)中央値はほぼ1年となりました。

多くの投資家が期待していた完全な治療という状況には至っておらず、一部の患者は結局は再発している状況ですが、多くの患者が既にさまざまな治療を受け、病状も悪い状態であったことを考慮する必要があります。

全体としては治験結果はとて堅実なもので、CAR-T療法がMM治療における強力な治療法のひとつになるものとピクテでは考えています。

注 奏効率:臨床試験において有効性をみる重要な指標の1つで完全奏効となった人と、部分奏効となった人を合わせた割合を指します。完全奏効は腫瘍が完全に消失、部分奏効は主要が30%以上小さくなった場合を指します。

ロクソ・オンコロジーなどが良好な結果を発表

良好な結果発表を行った主なバイオ医薬品企業としては、ロクソ・オンコロジー(米国)、イミュノメディクス(米国)、アレイ・バイオフーマ(米国)などが挙げられます。

ロクソ・オンコロジーは、RET変異固形癌に対する治療薬候補(LOXO-292)について発表を行いました。高い奏効率で、これまで公表のデータよりも改善を示していることが示されました。一方、ロクソの良好な結果の発表は、同様の治療薬の開発を進めているブループリント・メディスン(米国)の株価にとっては重石となりました。

イミュノメディクスは、同社の抗体薬がトリプルネガティブ乳がんだけでなくホルモン受容体陽性乳がんに対しても良好な結果を示したことを発表しました。これにより同社の治療薬が治療対象となる患者数が大幅に増加することになります。

またアレイ・バイオフーマは、BRAF変異を有する進行性黒色腫患者に対する同社のencorafenibとbinimetinib併用治療について良好な結果を発表しました。この治療は、PFSが15ヵ月、全生存中央値が30ヵ月超となり、現在の標準治療を明らかに上回っています。この発表を受け、この併用治療の承認と承認後の立ち上がりへの期待が高まっています。

ネクター・セラピューティクスなどの発表内容は失望

一方、失望を誘う内容の発表を行った主な企業としては、テサロ(米国)、ネクター・セラピューティクス(米国)などが挙げられます。

テサロは、トリプルネガティブ乳がん患者に対する治験の新しいデータを発表しました。同社のPARP阻害剤ゼジュラと抗PD-1薬(抗がん剤)キートルーダの併用治療は60%の奏効率を示しましたが、これは同様の患者を対象としたアストラゼネカ(英国)のPARP阻害剤Lynparzaの単独治療の奏効率である45～50%に比べ十分とは言えない結果でした。しかしながらテサロは今年後半にもゼジュラの単独治療の治験結果について発表しますが、同様の奏効率となった場合にはある程度のマーケットシェアを獲得するのに十分であると考えています。

<次ページに続く>

(※将来の市場環境の変動等により、記載の内容が変更される場合があります。)

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

初期の治験では高い奏効率を示していたネクター・セラピューティクス社の抗癌免疫誘導薬NKTR-214とプリストル・マイヤーズ スクイブ(米国)のオプジーボの併用治療について、治験の規模を拡大したところ奏効率の低下を示すデータが発表されました。がんの分野では、治験の患者数を増やした際に奏効率が低下することはよくあるケースですが、投資家は、ネクター・セラピューティクスが、フェーズ2治験では良好な奏効率を示していたIDO阻害剤エパカドスタットがフェーズ3治験の成功につながらなかったインサイト(米国)のような結果になることを心配したと考えます。この発表直後、ネクター・セラピューティクス社の株価は大幅に下落、その後も株価は変動が大きな状況が続いています(図表1参照)。

学会やヘルスケア・カンファレンスでの発表が株価に影響

ネクター・セラピューティクス社の例からもわかるように、治験が成功した場合には株価は大きく上昇しますが、治験が失敗した場合には株価は大きく下落することになります。特に、以前に発表されていた治験結果が良好だった場合、次の段階の治験の結果についても期待が高まることもあり、結果が不十分な内容であれば、株価の下落も更に大きくなる可能性があります。

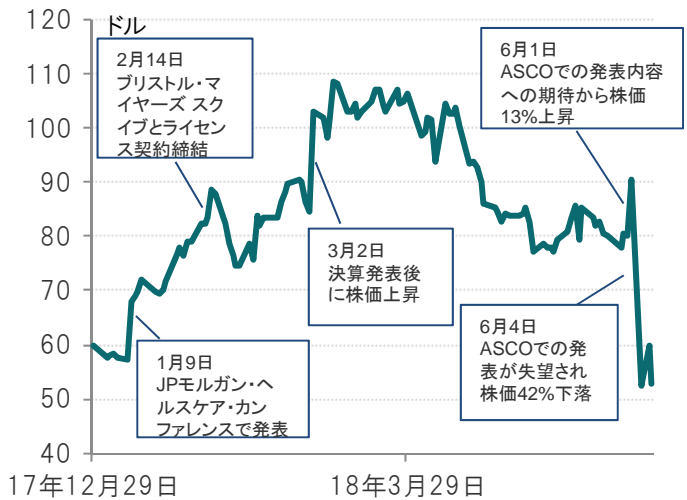
医薬品の開発動向については、医療学会や証券会社などが主催するヘルスケア・カンファレンスなどで発表されることが多く、これらの会議での発表内容がバイオ医薬品企業の株価に大きな影響を与えることから、バイオ医薬品セクターに投資する投資家から注目を集めています。

ただし、事前に学会などでの発表内容を予想することは難しく、株価の急変に備えるためには、分散投資が重要と考えます。

(※将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。)

図表1:ネクター・セラピューティクス社の株価推移

ドルベース、日次、期間:2017年12月29日~2018年6月7日



出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。